

「ビキニデー in 高知」で、水爆実験被災後の苦境を
証言する元漁船員たち
(高知県室戸市内)



高知・室戸ルポ

1954年のビキニ事件は第五福竜丸だけの問題ではなく、過去の話でもない。この事実は今の日本でどれだけ知られているだろうか。水爆実験で被災した高知県の元漁船員や遺族が救済を求めて司法の場に訴えてから6年。核実験被害者の援助を定めた核兵器禁止条約の第1回締約国会議を控えた先月、高知県喜多市などであつた「ビキニデー in 高知」を取材し、被災の全貌はどう隠蔽されたか、当事者の声はなぜ届かなかつたのか、つぶさに知る機会を得た。

(寄稿特別編集委員・佐田尾信作)

終わらぬビキニ事件

米国による中部太平洋・マーシャル諸島ビキニ環礁の水爆実験で被災した日本漁船は千隻に及ぶという。しかし翌年には日本政府が早くも見舞金だけで対米交渉を打ち切り、静岡県焼津市のマグロ漁船・第五福竜丸以外は黙殺された。

高知県の漁船の被災は実に30年後、幡多高校生ゼミナールが聞き取りするなどして掘り起こされる。さらに30年余り後の2016年には元漁船員らが日本政府に対して国家賠償請求訴訟

を起こし、全国健康保険協会(協会)に対しては船員保険の適用(労災認定)を求めて集団申請に至る。国賠訴訟は審

敗訴で断念したが、労災認定を求める訴訟は高知地裁で進行中で17日に証拠保全証人尋問があつたばかりだ。

水爆実験被災元漁船員救済ないまま



ビキニ事件と高知 放射能汚染によつてマグロを処分した日本漁船は延べ992隻。うち高知県分は延べ270隻に上つた。第五福竜丸と同様に死の灰を浴びた漁船も存在したが、船員の検査記録は本人に聞かず、厚生省(当時は1954年12月末までに被災船全ての調査を打ち切つた)。86年の国会審議で資料はない。政府は答弁。2014年に一転、日本漁船延べ556隻の検査記録を請求し応じて厚生労働省が開示した。

クリック

「ビキニデー in 高知」は昨年、幡多高校生ゼミナールが

30年に亘る被災の実態を語るのを聞いた。

「ビキニデー in 高知」は昨年、幡多高校生ゼミナールが

30年に亘る被災の実態を語るのを聞いた。

「ビキニデー in 高知」は昨年、幡多高校生ゼミナールが

30年に亘る被災の実態を語るのを聞いた。

「ビキニデー in 高知」は昨年、幡多高校生ゼミナールが



現在操業する近海マグロ漁船を見学し、ビキニ事件に思いをはせる参加者たち
(室戸市内)

かつて核実験に遭遇した漁船は取った魚を廃棄せられ、頑健な漁船員たちが相次ぎ健康不安を訴えた。治療費で家庭は苦だが、私たちが命懸けで漁じてきたことを知つてほしい」と語るのを聞いた。

現在操業する近海マグロ漁船を見学し、ビキニ事件に思いをはせる参加者たち

核兵器禁止条約は第6条で「被害者に対する援助および環境の回復」をうたう。21日才

ーストリアで始まる第1回締約国会議は、条文の具体化における議論の第一歩。水爆実験による被災は今なおマー・シャル諸島や隣国キリバスなどにも共通する問題だ。現地の被災調査を手がけてきた竹峰誠一郎・明星大学教授は呼びかけた。「研究者やジャーナリストさえもすくい上げてこなかつた声をちゃんと聞